11　大麦栽培暦　「ファイバースノウ」

大麦の生育

【栽培のポイント】
1　排水対策の徹底
2　土づくりの実践と的確な基肥施用
3　適正な播種
4　除草剤のあ使用等による雑草防除
5　赤かび病等の適期防除
6　適正な収穫と乾燥調製

【目標】高品質・安定収量の確保

○品質目標
- １等比率　90%以上
- 整粒比率　80%以上
- 品質ランクＡ格付け
  - 容積重　690g／Ｌ以上
  - 細麦率　2.2mm（篩）下に2.0%以下
  - 白度　43以上
  - 硝子率　40%以下

○単収目標　350kg/10ａ

〈収量構成要素〉
- ㎡当穂数　450本（苗立数150本×１株穂数３本）
- １穂収量　1.04g

茎数･穂数の推移

苗立数
１４０～２００本／㎡

播種１か月後の目標茎数
５７０本程度／㎡

越冬前（12/1頃）の目標茎数
６００～８００本／㎡

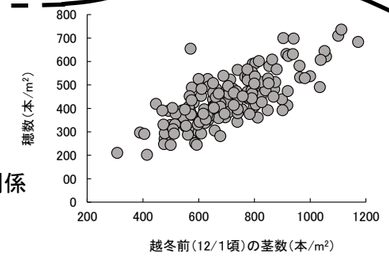
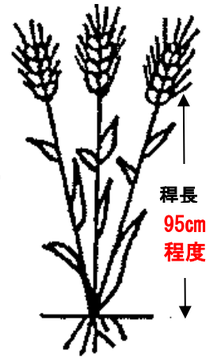


図　越冬前（12/1）の茎数と穂数の関係
注）生育観測ほ（H20～R５年産）

㎡穂数 450本

結実日数(平年)
45日

積算温度(平年)
763℃



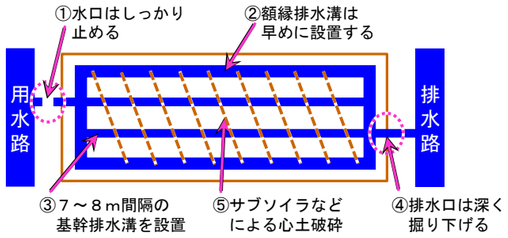
月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	４月	５月	６月
生育		発芽	分げつ期				幼穂形成期	節間伸長期	出穂期	成熟期

作業名

- ①排水対策
- ②土壌改良資材等の施用
- ③種子の準備
- ④播種作業（耕起・作溝・播種・基肥施用⑥）　１日で完了する
- ⑤雑草防除（除草剤の的確な使用）
- ⑥年内追肥（播種１か月後）
- ⑦排水溝の手直し（随時実施）
- ※年内２回目追肥（茎数不足かつ葉色が淡い場合）
- 積雪期間
- ⑦排水溝の手直し（融雪水の排水）
- ⑥消雪後追肥（消雪後直ちに施用）
- ⑥止葉展開期追肥（止葉展開期＝出穂の１１日前）
- ⑧赤かび病防除❶
- ⑧赤かび病防除❷（穂揃期）（１回目から７日後）
- ⑨収穫
- ⑩乾燥
- ⑪調製

栽培管理のポイント

①　排水対策
- 稲刈り後、早急に額縁排水と基幹排水溝を設置する
- 透水性の悪いほ場では、心土破砕を行う

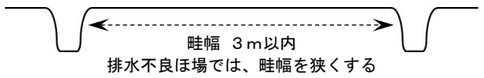


②　土壌改良資材等の施用
- pH6.0～6.5を目標に、石灰質資材を耕起前に施用する

③　種子の準備
☆播種量の目安

播種期	目標苗立数(本/㎡)	播種量の目安(kg/10a) ドリル播	播種量の目安(kg/10a) 表面散播
9月6半旬	140	6.0	6.5
10月上旬	150	6.5	7.0
10月中旬	200	8.5	9.0

④　播種作業
- ほ場の乾いたときに、耕起・作溝・播種の１連作業を１日で完了する
- 播種適期は10月上旬。遅くとも10月中旬までに播き終える



- ほ場が乾き、条件の良いときに作溝する
- 溝は耕盤（約20cm）より深く掘る
- 溝は必ず深く掘り下げた排水口に連結する

⑤　雑草防除
- 土壌処理除草剤の効果を高めるため、砕土率の向上に努める
- 雑草の種類や発生状況に応じ、効果の高い除草剤を的確に使用する
- ほ場内に発生したカラスノエンドウやハマダイコン等は速やかに除去する

☆種子消毒の方法

風呂浸湯法	42～43℃の風呂湯に入れ、10時間浸漬する（自然に温度を下げる）
循環式催芽器	45℃の温湯に入れ、2.5時間浸漬する（時間厳守）
薬剤粉衣	ベンレートＴ水和剤20の場合：乾燥種子重量の0.5%粉衣 乾燥種子10kgに対して、水200mL程度加用し、薬剤を均一に混和する

⑥　施　肥
☆肥効調節型基肥栽培の場合
窒素13.5kg/10ａを目安に、地力に応じて施用する

☆分施の場合（全層の場合）

施　肥	時　期	窒素施用量(kg/10a)
基肥	播種時	５～６
年内追肥	播種１か月後(11月上旬)	４
消雪後追肥	消雪直後	３～４
止葉展開期追肥	出穂12日前頃	０～２

ただし、追肥は生育に応じて加減する

☆リン酸、加里
少なくとも子実持出相当量(リン酸4～5kg/10a、加里3～4kg/10a)を施用する

⑦　排水溝の手直し
- 排水対策は、大麦栽培の“かなめ”
- 生育期間中は、随時、排水溝の手直しを行う
  （特に11月下旬の降雪前、２月下旬の融雪期）

⑧　赤かび病防除
- 赤かび粒の混入限度は0.0%
- 開花状況を確認し、穂揃期（開花始め）とその７日後の２回防除を徹底する
- 薬剤散布に際しては、風の弱い時間帯を選ぶなど、 周辺作物や住宅地への飛散防止に努める

※薬剤の一般的な使い方や注意事項は「農作物病害虫・雑草防除指針」を参照する

⑨　収　穫
- 収穫前のほ場巡回や荷受時の入念な検査による異物の混入を防止する
- 子実、茎葉が完全に黄化し、子実水分が30%以下になったら収穫開始

⑩　乾　燥
- 毎時乾減率1.0%以内の乾燥速度で仕上げ水分13.0%とする

⑪　調　製
- グレーダーの篩目は2.3ミリを用い、容積重の高い麦に仕上げる